



月刊労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

96.4.16 No. 4378

96年を国鉄決戦勝利の年に 松崎発言を弾効する

分割・民営化体制が十年目に突入する中、その破綻をめぐっていわゆる「九年度問題」が政治的焦点化する中で、JR東労組会長松崎はこの間各地で、おまにJR東日本の管理者を対象とした講演を行なっている。

この松崎発言の内容は、およそ労働組合の責任ある役員のものとは思えない、資本の論理、当局の論理そのものであり、断

じて容認できるものではない。ここにはJR体制から切り捨てられることにおびえ、自己の悪業を正当化するとともに、なんとか現在の会社との結託体制を維持しようとするあせりにみちた動きに他ならない。

以下にこの間の松崎発言を取り上げる。この数々の発言を怒りをもって弾効するとともに、JR体制打倒へつきすすもう。

資本の論理の 全面肯定

●「価格破壊の一部に賃金破壊が入るんです。そういうなかで労働者の首切り問題がでてきます。利潤をいかにスピーディーに獲得するか。効果的に進めるか。これは資本の論理です。良いとか悪いとかの善悪の問題ではない。論理なのです。法則なのです。」

●「経済というものが平坦な道をエンドレスに発展するなどということはあり得なかつたし、今もあり得ないわけで、資本の法則である。いかにうまく資本の法則に適応していくかということ、会社側と労働組合側の洞察力つまり先見性である。」

ワークシェアリング

●「これしかお金がでないから極端な話、半分首切ると言われて、ストライキで解決できるか、

できない。ストライキよりは理性である。ストライキよりはワークシェアリングについて皆で労働を分担しよう。」

●「資本主義を肯定する以上、そのなかでどうやって生きるか、皆で労働を分担していく。その代わり従来の賃上げはもう無理である。」

●「一定の収入源でどうやって分かちあうかということが、やがて日本の労働運動をまじめに考えている部分にとつて避けられない道と私は思っている。自分の労働時間を半分にして、自分の労働時間を半分にして、賃金は半分でいい、あと半分の時間は別の目的に使いたいというところがでてきてもいいのではないか。画一的に行なう必要はないと思う。それは広い意味でのワークシェアリングだ。」

●「数年先にはワークシェアリングも考えていかないとだめだ。いくつかなの変化に富んだ雇用契

約、賃金支払い契約についても、いろいろとタブー視することなく大いに議論し、経営陣との間にも率直な議論をしていく必要がある。戦争とか憲法の問題もそういうことだ。」

食っていくため には軍需生産を

●「失業という言葉は一番の問題になるわけである。日本では予測するに私は軍需産業ということになる。そうすると邪魔になるのは武器輸出三原則である。一方、憲法の見直しがあるわけだ。他方、武器輸出三原則の見直しがある。当然、あらゆる武器が海外に売れるということになり作ろうということになる。」

●「景気はここまで来た。もうカンフル剤はきかない。とする。と危機は進んでいくと判断する。最後に何が残されたかというところ、それは軍需産業である。」

●「弾はいくらだつて消費できる。だからどんどん税金でつくればいい。理想を食って生きてゆくわけにはいかない。だつたら軍需産業でも何でもやって、食っていきけるようにしなければならぬ。」

●「一番利益をあげるのは戦争だ。戦争は修理する必要がない。ロケット一発撃つて、何千万しようにと撃ちつばなしだ。したがって日本の産業も軍需産業に移る。これは歴史の必然だ。……

もつと失業者が登場していく。き、ナチズムが登場していく。ファシズムが登場していく。好むと好まざるにかかわらず登場することになる。」

国労の最後の解

●「わが社でも企業内余剰力がある。私あるいはJR東労組のリーダーたちは、この時期に会社と組合がいつしよになつて一企業一組合で行こうとしている。その時に、よその会社の連中の指令でこの会社に楯突く人たちは、今さらいつまでも会社についてもらう必要はない。」

●「1047名問題は不当労働行為でも何でもなし。国労の過つた指導の結果だ。」「私は委員長として決断した。負けるに決まっているから判断した。ヤミ・カラもそう。ブルトレもそう。10年後を洞察したら道はひとつしかなかった。われわれは洞察する。洞察は科学だ。労働運動は科学の上に組み立てなければだめだ。同情で労働はできない。国労は雇用を守ろうとはせず、組合員に犠牲を強いた。」

全支部物販担当者会議

と き 四月二三日
ところ 動力車会館
九六夏期物販の成功を
かちとろう